

ゲーム後のコーチの言動が選手に与える影響について

山村 剛央 (競技スポーツ学科 コーチングコース)
指導教員 鳥羽 賢二

キーワード：ゲーム後 コーチの言動 勝敗と指示 聞く姿勢

1. はじめに

現在の経営マネジメントで広く使われている組織マネジメントツールとして、PDCA サイクルがある。

同様にスポーツのチームマネジメントを考える上で、PDCA サイクルは図1に示したように、以下のように当てはめることができる。P=戦術を練る/D=ゲーム実践(戦)/C=反省、評価する/A=是正のための再練習を実施する、といった事になる。

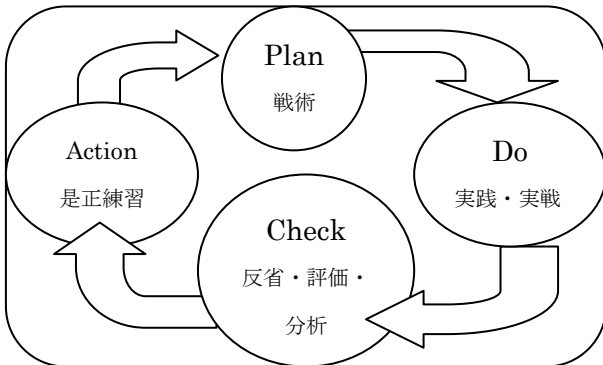


図1 スポーツのPDCAサイクル

本研究は、PDCA サイクルに依拠し、コーチの言動が選手の競技力、またチームワークを高めるために、どのような役割を担っているのかを導き出すこととした。特に、ゲーム後のC場面において「コーチが行う、選手に対しての指導内容や指導方法」及び「選手の指示を受ける姿勢」に着目した。

2. 研究方法

文献調査・アンケート調査

アンケート対象 大学バレーボール連盟所属
全6チーム 計135人

回収状況 133/135人(全体の98%)

3. 結果と考察

コーチの指導内容の割合として、ゲーム前に精神的指導が多いという回答者が71%。ゲーム中においては53%となっている。しかし選手は、エモーショナルで情緒的な指導よりも、戦略や戦術的な指導を求めているということが、調査結果より明らかになった。

図2に示したように、ゲーム後のC場面でアドバイスをを受けた選手の89%が、そのアドバイスが次の練習・ゲームに有効的に左右すると解答している。

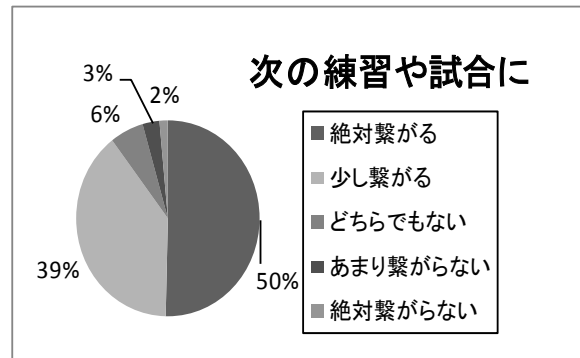


図2 ゲーム後のコーチからのアドバイス

4. まとめ

ゲームに勝てば喜び、負ければ反省する等、ゲーム後に選手はコーチとの精神的な同調を求める。ただ、コーチは選手とは別に、C場面で次に繋がるよう冷静なチーム分析を実施しなければならない。そしてPDCAサイクルをしっかりと循環させることが重要となる。それにより、効果的なコーチングが実施できるのである。このことは、選手個々の競技力を伸ばし、しいてはチーム力を上げることに繋がる。

参考・引用文献

植田恭史(2006)「コーチング研究IV」東海大学紀要. 体育学部 36, 65 - 71